

平成 28 年度

地域志向型教育・研究プロジェクト中間報告書

国立大学法人 小樽商科大学

【本件に関するお問い合わせ先】  
小樽商科大学企画戦略課地域連携戦略係  
TEL: 0134-27-5234  
E-Mail: cocjimu@office.otaru-uc.ac.jp

## ●平成28年度 地域志向型教育・研究プロジェクト中間報告書 目次

### 【研究】

- ・ 北海道を世界に発信するための英語表記の実態調査 小林 敏彦 …… 1
- ・ ニセコ観光局プロジェクト協議会(倶知安町、ニセコ町)との連携による、長期滞在型観光に関する調査・研究 プラート・カロラス …… 2
- ・ 余市町における観光を主軸とした地域経済活性化に関する調査・研究 西山 茂 …… 3
- ・ キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクト 川本 雅史 …… 4
- ・ Google Map APIを利用したおたるウォーキングマップ・アプリの開発に向けて 佐山 公一 …… 5
- ・ 小樽・後志地域における北前船の歴史的価値の観光資源化 高野 宏康 …… 6

### 【教育】

- ・ 地域企業の成長戦略に関するケーススタディと企業家教育—後志地域と先進事例の比較分析— 加藤 敬太 …… 7
- ・ 地域の問題を知り、討論を通じて解決のきっかけを考えるための分野横断的ゼミ対抗ディベート大会 柴山 千里 …… 7
- ・ 歴史的建造物保存・活用のためのファンド形成プロジェクト 江頭 進 …… 8
- ・ 「しりべし一般教養テスト」の作題を通じた地域理解の試み～テスト理論に基づく地域連携と興味喚起の実践～ 辻 義人 …… 9
- ・ 後志地域の情報を「効果的」かつ「継続的」に伝える方法 木村 泰知 …… 10
- ・ 小樽・後志におけるヒューマンストーリーの発掘と地域資源化 後藤 英之 …… 11
- ・ (株)小樽水族館公社および(株)北海道マリパークにおけるBSCによる戦略の比較 上山 晋平 …… 12

# 北海道を世界に発信するための英語表記の実態調査

プロジェクト代表者: 小林 敏彦

## 1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、北海道を訪問する外国人の便宜を図る手法のひとつとして、英文掲示物の数を増やすことを最終目的とし、その前段階としてまず道内の街角、建物の中、店舗、宿泊施設等における英文掲示の実態を把握するために現地に赴いて撮影し分析するものである。北は宗谷地方(稚内、利尻)から根室、函館、札幌、小樽、千歳、洞爺湖等の観光地を中心にできる限りのフィールド調査を行い、今後の対策の指針とする。

## 2. プロジェクトの進捗状況について (~H28.10)

2016年10月30日現在で、以下の4地方のフィールドリサーチを終了している:

### 地(知)の拠点整備事業地域志向型研究プロジェクト 調査記録#1

期間:2016年7月17日日曜日~18日月曜日  
場所:北海道天塩郡天塩町、遠別町  
宿泊:遠別町本町3丁目 旅館ふじや  
内容:街中の英文撮影、和文のみの館内案内  
総評:英文表記のない典型的な小規模旅館(外国人宿泊もある)以下は、英文の併記が望まれる和文掲示物である。



### 地(知)の拠点整備事業地域志向型研究プロジェクト 調査記録#2

期間:2016年7月28日木曜日~29日金曜日  
場所:利尻島、鴛泊町  
宿泊:北国ホテル  
内容:街中及びホテル館内の英文撮影、鴛泊町役場観光課で聞き取り調査を行ったが担当者不在。



### 地(知)の拠点整備事業地域志向型研究プロジェクト 調査記録#3

期間:2016年8月14日日曜日~15日月曜日  
場所:稚内市  
宿泊:チサンホテル  
内容:街中及び道路標識、ホテル内の英文撮影、公園の掲示物撮影  
総評:つづり、語彙、統語等、多種類のエラーが特定できた。



### 地(知)の拠点整備事業地域志向型研究プロジェクト 調査記録#4

期間:2016年9月4日日曜日~6日火曜日  
場所:羽幌町(天売島、焼尻島)  
宿泊:サンセットプラザ  
内容:レンタル自転車を使用して島を一周し街中及び道路標識、国定公園の英文撮影、商店聞き取り調査  
総評:島内での英文表記は極めて少なく、安全に関わる注意書き等の英文表記が望ましい。



## 3. 今後の取組予定について

今後は、期間と予算の都合により、フィールドリサーチは限定的とならざるを得ないが、函館および根室周辺の調査を予定している。北海道全体を周遊し、全体像を把握するには、なお数年の年月を要すると思われる。とりあえず、年度中に収めた画像の分析を行い、英文表記を増やすための具体的な提言を行う予定である。なお、ここで報告し提示した画像の一部は、今年、9月韓国のソウル市にある国民大学で開催されたSAI (STEM-ATEM-ICEM)国際大会でThe Ubiquitous Presence of Funny English Signs in Japan: patterns and strategies to avoid themのタイトルのもとで発表済みである。今後、東京オリンピックの前に来日する外国人がさらに増える現状を踏まえ、英文の表記の増設はもとより、不適切な英文表記の撤去や修正も同時に進行させなければ、我が国の民度が疑われ、イメージの低下を招き国益を損する恐れがあることを申し添える。

# ニセコ観光局プロジェクト協議会(倶知安町, ニセコ町)との連携による、 長期滞在型観光に関する調査・研究 プロジェクト代表者: プラート カロラス

## 1. プロジェクトの目的・概要

このプロジェクトは、国際的なリゾート地へのブランドアップを図っていく必要があるニセコ地域において、インバウンドの増加と滞在期間の延長に寄与することを目指すもので、具体的な取組みとして、ニセコ地域を含んだ広域観光における課題調査、国内観光(インバウンド、新幹線)の現状と課題の調査等を行っています。

平成26年度(今年度で3年目)からの継続プロジェクトで、今年度は昨年度の調査で判明した以下の課題を中心に調査を行います。

- ①北海道新幹線開業に伴う「函館～ニセコ～札幌」の移動ルートの検証
- ②激増したインバウンドと日本人観光客との共存策の検討

## 2. プロジェクトの進捗状況について(～H28.10)

夏休みに、以下のスケジュールにてアンケート調査を実施、214のサンプルを回収しました。

1. 調査スケジュール  
・アンケート調査: 2016年8月27-28日(2日間)
2. 調査方法  
・面談聞き取り調査(調査員が聞き取り、記入)
3. チーム編成(教員1名、学生4名)  
チームA: ニセコビュープラザ(道の駅)  
チームB: 高橋牧場・NACニセコ店



## 3. 今後の取組予定について

現在、アンケートを整理・入力作業を行っているところですが、今年中に分析を終え、来年2月には倶知安町及びニセコ町への報告を行う予定です。

# 余市町における観光を主軸とした地域経済活性化に関する調査・研究プロジェクト代表者: 西山 茂

## 1. プロジェクトの目的・概要

このプロジェクトは、余市町における観光資源の活用とTVドラマなどによるコンテンツツーリズムの検証(経済波及効果分析)、長期的な観光戦略の検討を行うことを目的としています。

余市町が観光地としてのブランドアップを図ることで、小樽・札幌との広域観光圏形成も可能となり、地域経済活性化につながるものと考えています。

## 2. プロジェクトの進捗状況について (～H28.10)

7月23-24日の日程で北海道新幹線開業の影響調査を実施、新函館駅、木古内駅を訪問したほか、道の駅(木古内)の稼働状況の調査を行ないました。新函館駅では、乗換が主体で、札幌や函館市内に向かう乗客が多く、新函館駅周辺の活性化に欠けることが確認されました。一方で、木古内駅の調査では、新幹線駅と道の駅を連携させ、地域製品のPRを行うことで、地域活性化の拠点として活用、成果が出ていることが確認できました。道の駅を、単なる情報発信拠点や物産販売の場所ととらず、地域の方も利用する交流の拠点と位置づけたことが成功要因と思われます。

これらのことは、これから新幹線の札幌への延伸を控える、ニセコ地域、小樽地域について、参考となる事例と考えております。



## 3. 今後の取組予定について

現在、過年度で得られたデータを分析、今年度の調査結果も踏まえて、論文執筆の作業を行っているところです。

### 4つの事例の比較

ドラマ	放映による効果	所縁の施設
北海道余市町【マッサン】	放映前から始まり、現在も継続	ニッカウキスキー蒸留所
山梨県甲府市【花子とアン】	放映中の3カ月	戦前の空襲で建物の殆んどが消失
石川県能登市【まれ】	放映前から始まり、現在も継続	「漆器店」「輪島市役所」「朝市」
愛知県岡崎市【純情きらり】	放映後から緩やかに減少	「カクキュー八丁味噌」「まるや八丁味噌」

# キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクト プロジェクト代表者：川本 雅史

## 1. プロジェクトの目的・概要

キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクトは、小樽商科大学の「事務職員」3名によるプロジェクトです。

大学教員のような高い専門性がない代わりに、「**ご当地キャラクター**」をツールとして、親しみやすく地域に直接リーチする活動により、広域連携の推進と地域活性化に取り組んでいます。



## 2. プロジェクトの進捗状況について（～H28.10）

【昨年度からの変更点】

	平成27年度		平成28年度	
開催期間	51日間 (H27.9.19-11.8)		93日間 (H28.7.2-10.2)	
参加市町村数	札幌市を含む19市町村		しりべし地域全20市町村	
会場数 (臨時を除く)	27		43	
	常設会場	イベント会場	常設会場	イベント会場
	24	3	26	17
トレカ配布	全会場		イベント会場のみ	

【昨年度との結果比較】

応募総数	824		1,714	
応募シール貼付総枚数	6,761		14,309	
会場シール配布総枚数	23,160		65,090	
応募者居住地	道内	道外	道内	道外
	92.8%	7.2%	79.6%	20.4%

本プロジェクトの今年度最大の取組は、昨年を引き続いての実施となるスタンプラリー形式の地域周遊促進企画「**ご当地キャラクターシールリレー2016**」の開催です。

昨年度の実施結果、参加機関やイベント参加者の声を踏まえ、開催期間の見直しのほか、しりべし地域全20市町村との連携を達成した結果、各種数値が順調に伸びるなど、成果が挙がっています。



## 3. 今後の取組予定について

通常のスタンプラリーは、各会場で実際にスタンプが押された数をカウントすることができないため、プレゼント応募者のデータのみを分析することになりますが、「**ご当地キャラクターシールリレー**」は、**スタンプの代わりにシールを活用**していることから、会場ごとのシール持ち帰り数（≒のべ参加者数）がカウント可能であり、独自の指標でイベントの効果、観光客の行動を分析することが可能です。

11月をメドに報告書を取りまとめ、イベント参加機関のほか、観光関係機関等にその結果を還元する予定です。



# Google Map APIを利用したおたるウォーキングマップ・アプリの開発に向けて

プロジェクト代表者：佐山 公一

## 1. プロジェクトの目的・概要

プロジェクトの最終的な目標は、現在ウェブ上に構築してきている『おたるくらしマップ』（<http://otaru-class.com/map/>）を実際に多くの人に使ってもらい、小樽を訪れてもらえるようにすることであり、本プロジェクトではその予備調査を行う。『おたるくらしマップ』は、今のところその使いやすさからGoogle Map APIを使っている。小樽のGoogle Mapとその上の場所に置かれたアイコン（観光目的を示すカテゴリーごとにある）からなっており、アイコンをクリックすると、その場所の観光情報が、誰かの経験としてストーリー展開され、小樽を疑似的に追体験できるようになっている。

小樽に行ったときの状況を、自宅（居住地）や小樽にいながらよりリアルに疑似体験できるようにする。これを実現するためには、提供するコンテンツを（すでにある『おたるくらし』の記事の中から）どう選ぶかといった内容の問題、それをどのようなソフトウェアの形にして提供するかといった技術の問題、これら二つの問題に切り分けて考える必要がある。

## 2. プロジェクトの進捗状況について（～H28.10）

2016年9月6日に、内容と技術の両面に詳しい中山仁史氏、内容に詳しい小樽観光協会の永岡朋子氏と、さらに同年9月23日に、中山氏、最新技術に詳しいアートフル船戸大輔氏と話し合った。その結果、自宅にいるときと小樽訪問時とは、使用状況が異なり、分けて考える必要があるのではないかとの結論に達した。

**自宅にいてスマホ、タブレット、PCを使って小樽の情報を調べるときには、テキスト情報をじっくり読む状況を想定すればよい。** この場合には、『おたるくらしマップ』を見やすくするようにすればよい。これまで通り、Google Map APIを使う。

しかし、**小樽に来てスマホを使って調べるときには、じっくりテキストを見ることはしない。手軽にかつ感覚的に情報を提供する必要がある。** その方法として、動画や静止画の形で見せるのがよい。これを**低予算**で技術的に達成するには、スマホのアプリにはせず、現状の**Webアプリ**のまま使用感を改善することを考える方がよい。

**動画**を中心に使う場合には、**ユーチューブに動画をアップしておいて『おたるくらしマップ』から自動的に移動させる**ようにする。動画を新しく作る場合にはドローンも活用する。

**静止画**を中心に使う場合には、**インスタグラムと『おたるくらしマップ』を連動させる**。インスタグラムはフェイスブック（『おたるくらし』フェイスブックがある）と連携できるので、フェイスブックのAPIを使うのがよい。

## 3. 今後の取組予定について

今後は、2017年の1月末（小樽や札幌の冬祭りの直前）に、『おたるくらし』フェイスブック上で、**アンケート調査**を行うことにしている。『おたるくらしマップ』を実際に使ってもらって、その**使用感**を尋ねる。このアンケート調査は、これまでと違って、読者に負担を若干かけることになるので、いづらかインセンティブを参加予定の読者に与えるようにする。

アンケート調査では、まず、2回の話し合いの中で結論された『おたるくらしマップ』の自宅、小樽訪問時の使用状況が、想定通りであったかどうかを確認する。さらに、想定外の状況、たとえば、見込み客の住んでいる居住地による違い、**見込み客の属性**（年齢層、性別、など）による違いがあるかどうか、などを調べる予定にしている。

これまで述べてこなかったが、当初の申請では、観光情報を音声化する予定でもあったので、小樽商大の学生に日本語で、留学生に中国語でいくつかサンプルを作って、アイコンに埋め込んでみることも予定している。

# 小樽・後志地域における北前船の歴史的価値の観光資源化 プロジェクト代表者:高野 宏康

## 1. プロジェクトの目的・概要

- プロジェクトの目的  
本プロジェクトの目的は、小樽と後志地域に重要な役割を果たした北前船の調査研究を通じて、その歴史的価値の地域観光資源化を推進し、小樽と後志地域をつなぐ新たな広域連携・観光ルートを開発することです。昨年度は、新資料発見(船絵馬など)により小樽・後志地域の北前船による歴史的關係を明らかにし、ツアーやパネル展等により歴史文化による広域観光を推進できました。
- 本年度の事業内容
  - ①後志地域を中心に、北前船ゆかりの史跡や資料等の調査を実施します。
  - ②講演、シンポジウム、パネル展、デジタル・アーカイブ拡充等の情報発信により、地域社会に成果を還元し、地域観光資源としての定着化を目指します。
  - ③北前船関連の全国学会および各地の地域振興事業に協力・情報提供を行います。
  - ④地域志向型教育プログラムに成果を組込み、地域の歴史文化と地域資源への理解を深めます。

## 2. プロジェクトの進捗状況について (~H28.10)

- 調査研究
  - ①北前船から北洋漁業への転換期に関する資料を発見しました(択捉島水産会関連写真)。新聞報道により、北海道と北前船の関係をいまに伝える貴重な資料と評価されました。(北海道新聞:平成28年6月23日付、朝日新聞:平成28年9月26日付)
  - ②後志地域に北前船のゆかりを示す「笏谷石」が多数分布していることを確認しました。福井県足羽山でのみ産出する笏谷石は北前船に積み込まれ、各地に運搬され建物や墓標などに使用されていますが、これまで北海道では道南でしか確認されていませんでした。

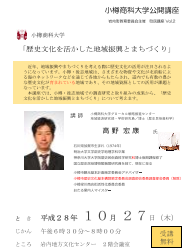
### ●情報発信による地域観光資源化(小樽)

- ①講演「北前船と小樽」(和と洋の祈り、平成28年9月10日)  
北前船をテーマにしたイベントで講演しました。  
会場の小樽市能楽堂は佐渡出身の岡崎家による建造。佐渡産神代杉が使用され、北前船を通じた海のネットワークを象徴する小樽の建物の一つです。朝日新聞:平成28年9月26日付
- ②講演「ホンモノの小樽とは」(小樽観光ワークショップ、平成28年10月1日)  
小樽観光について考えるワークショップの講演会で、「ホンモノの小樽」を体感できる観光資源として石造倉庫や船絵馬など北前船ゆかりの地域資源の意義を紹介しました。



### ●情報発信による地域観光資源化(後志ほか)

岩内町公開講座「歴史文化を活かした地域振興とまちづくり」(平成28年10月27日)岩内をはじめ後志地域と北前船のゆかりを紹介。地域振興に活用する方法について講演しました。



岩内講座ちらし

## 3. 今後の取組予定について

- いしかり市民カレッジ「北前船ものがたり」(平成28年11月30日)
- シンポジウム&パネル展「北前船と小樽・後志」(平成29年1月)
- 雪あかりの路対談「北前船と小樽」(平成29年2月予定)
- 北の文化探訪(小樽・後志・札幌のツアーと講演・演奏会、平成29年)
- デジタルアーカイブの拡充(平成29年3月)



北海道新聞:平成28年9月24日付



# 地域企業の成長戦略に関するケーススタディと企業家教育—後志地域と先進事例の比較分析—

プロジェクト代表者:加藤 敬太

## 1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトの目的は、地域企業の成長戦略のメカニズムを明らかにすると同時にその成果を地域企業家への企業家教育に活用することである。とくに本研究では、後志地域の地域企業家への研究成果のフィードバックならびに企業家教育を念頭に進めていく。具体的には、後志地域の地域企業と道内ならびに道外の地域企業の先進事例の比較ケーススタディを行ったうえで、論稿等の発表ならびに学部・大学院の授業や研究会を通じて企業家教育を行っていく。

## 2. プロジェクトの進捗状況について（～H28.10）

本プロジェクトは、これまでに、研究対象とする道内外の地域企業に対しインタビュー調査を含むデータ収集を実施してきており、現在収集したデータの精査および理論化に取り組んでいる段階である。また、一部の事例に関しては既に研究成果として論文公表に至っている（加藤敬太・笹本香菜（2016b）「北海道テレビ放送におけるドメイン戦略—地方テレビ局から地域メディアへの転換とドメイン・コンセンサス—」『経済論叢』（京都大学）第190巻，第1号（近刊））。さらに、学部授業および大学院授業では、各事例をケーススタディとして紹介し、学生に対するフィードバックを随時行っている。

## 3. 今後の取組予定について

今後の取組み予定としては、ケーススタディの成果を適宜、学会報告および論文公表し仮説の検証と理論化に取り組んでいく。また、本プロジェクトは、地域の企業家育成・企業家支援、企業家教育に関して実績のある「トーマツベンチャーサポート(株)」札幌オフィスが協力者として加わっている。同社とは、本事業で得られた調査・研究成果を共有し、地域企業家へのフィードバックを試みると同時に研究成果報告会(研究会)の開催を検討中である。

# 地域の問題を知り、討論を通じて解決のきっかけを考えるための分野横断的ゼミ対抗ディベート大会

プロジェクト代表者:柴山 千里

## 1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、後志の直面する課題をテーマに据え、経済学、言語学、法学にわたる多分野のゼミが対抗ディベート大会を行うものである。まず、最初の3回では、各回2～3の試合のテーマのうち、ひとつを小樽や後志の問題とする。それらの大会で扱ったテーマや議論内容を事後検証し、更に改良を加えた形で、小樽・後志が直面する現代的なテーマを選んで、市民や観光客に広く公開する形で第4回ゼミ対抗ディベート大会を行う。

## 2. プロジェクトの進捗状況について（～H28.10）

すでに5月26日と7月14日にディベート大会を開催している。小樽・後志関係のテーマは、5月26日は小樽観光に関する小林・井上ゼミによる「観光客誘致の対象を日本人主体にするべきか外国人主体にするべきか」、7月14日は小樽へのカジノ誘致のテーマで柴山ゼミと中島ゼミで「小樽へのカジノ誘致に賛成か反対か」を議題にしてディベートを行っている。必要に応じて、グローバル戦略推進センター研究支援部門の高野宏康研究員や小樽市産業港湾部の中野弘章部長のご助言を頂いている。

## 3. 今後の取組予定について

11月24日に第3回目のディベート大会を予定しており、すでに詳細は決まっている。小樽・後志関係のテーマは、北海道新幹線の新小樽駅に関するもので、小林ゼミと井上ゼミにより、「新小樽駅は必要か不要か」に関して議論される。その後、第4回目のタイトルや会場等についての打ち合わせを行い、12月下旬もしくは1月中に第4回目のディベート大会を開催する予定である。

# 歴史的建造物保存・活用のためのファンド形成プロジェクト

プロジェクト代表者: 江頭 進

## 1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは小樽市内の歴史的建造物を保存・活用を進めるための資金調達の方法としてクラウドファンディングの活用を検討するものである。

## 2. プロジェクトの進捗状況について (～H28.10)

1. 本プロジェクトは多額の寄付金を集め運用するため、大学とは独立した組織を立ち上げる必要がある。そこで本年3月に学生と小樽市民が共同で、NPO法人 EGA-Oを設立し、10月には公式webサイトを開設した。
2. 現在は、このwebサイト内でクラウドファンディングが実行できるようにシステムの構築を行っている。
3. クラウドファンディングの成功のためには、潜在的な寄付者すなわち小樽ファンの形成が必要である。そのために現在、E-GAOでは小樽のPRIにつながる各種の活動を行っている。
4. COC終了後の継続性の問題を考え、EGA-Oでは、大学や自治体の予算に依存しない独自の収益手段を確立しつつあり、実際、クラウドファンディングのシステム構築にかかわる活動以外は、すべて自己資金で賄っている。



## 3. 今後の取組予定について

1. 2.2にかんして、年内にクラウドファンディングのwebサイトの構築を行い、2月上旬までにクレジットカード会社等との契約を行う予定である。サイトの構築が早ければ年度内に、試験的な寄付の募集(屋根の雪下ろし費用、建造物の排雪費用等)を行う。
2. EGA-O会員の経験を積ませるために現在北海道のクラウドファンディングであるAct Now!で実際にクラウドファンディングを計画中である。これは12月には開始される。
3. 2.3にかんして、小樽市総合博物館、北海学園大学と共同で、小樽市総合博物館企画展「路地裏の貌」を行う予定である。
4. 2.3にかんして、地域通貨ゲームを年度内に市内の小中学校に配布する予定である。
5. 2.4にかんして、「小樽deガオちゃんねる」の作成を年度内にさらに10本予定している。これは新入会員の研修も兼ねている。

**プロジェクト**

NPO法人 EGA-Oでは、小樽のまちづくり支援に関係する様々なプロジェクトを行っています。

1. 兵庫コレクションプロジェクト (2015年4月スタート)  
昭和50年代の小樽の写真を8,000枚以上も撮影していた札幌市出身の写真家兵庫郷氏の写真を使ったプロジェクトです。兵庫氏と同じ場所、同じ角度で2016年の今を映した写真を撮影します。北海学園大学との共同での構物展示会の企画もあります。
2. 地域通貨Tarcaプロジェクト  
・地域通貨Tarcaゲーム作成・普及プロジェクト (2015年8月スタート)  
小樽の地域通貨Tarcaをゲームを通じて学べるカードゲームの作成・普及プロジェクトです。ゲームをプレイすることによって、お金の役割や日本円と地域通貨の機能の違いなどを理解することができます。完成後は小樽市内の小中学校へ金融教育の教材として配布される予定です。  
・電子地域通貨Tarca流通実験(2018年予定)  
すでに試行流通実験を行っている電子地域通貨Tarcaですが、2018年には大規模流通実験を行う予定です。世界的に見ても、先進的なシステムを備えている電子地域通貨Tarcaですが、本格流通に向けて準備を進めています。

1. 小樽 de ガオちゃんねる (2016年2月スタート)  
小樽の町の魅力をYoutubeを使って隅々まで紹介するプロジェクトです。英語字幕もありません。

# 「しりべし一般教養テスト」の作題を通じた地域理解の試み～テスト理論に基づく地域連携と興味喚起の実践～

プロジェクト代表者:辻 義人

## 1. プロジェクトの目的・概要

【地元の方々に愛される「ご当地検定」とは？】

- ・各地域には、各地域の特色があり、そこに住む人々の愛着がある。
- ・「地元の方々」には当然のことであっても、異なる地域にとって「珍しい、価値がある」ことがある。
- ・地域に対する愛着を高め、理解を促す手法として「ご当地検定(おたる案内人など)」がある。
- ・学生に、小樽・後志地域に関する「ご当地問題」を作題させ、地域への理解・興味関心を高める。

【テスト理論に基づく検討】

- ・テスト理論とは「そのテストが適切なものか、そうでないか」を判断する考え方である。
- ・極端な例として、世界史のテスト問題で「イギリスで産業革命が生じたのはなぜか？」という問いを、スペイン語で出題したとき、それに解答するには、世界史とスペイン語の両方の知識が求められる。これは、世界史の理解度を測定するには不適切である。
- ・「テスト問題が適切か、そうでないか」を検討する指標として、ここでは「①弁別指数」と「②IT相関」の2つに注目する。

①弁別指数: あるテスト問題について、上位群と下位群の正答率の差を調べる(上位群の正答率-下位群の正答率)。この数値が小さい場合、テスト問題として不適切である。(0.4を超えることが望ましい)

②IT相関(ITEM-TOTAL相関): その個別の問題と、全体の正答率の相関係数を求める。この値が高いほど、この個別問題とテスト全体の成績に強い関係性が見られる。

## 2. プロジェクトの進捗状況について (～H28.10)

【おたるご当地クイズの試作・検証(H28.10～11)】

ご当地クイズの試作として、小樽ご当地検定(おたる案内人)を参考としたクイズを作成・実施し、テスト理論に基づく検証を行った(弁別係数、および、IT相関による検証)。調査はウェブ上で実施し、有効回答数は234件であった。以下に、「良問」と「危険な問題」の例を掲載する(正答に下線)。

[良問と考えられる問題]

- ・昭和61年(1986年)に制定された「小樽市の鳥」はどれでしょうか。(タンチョウ、アカゲラ、エトピリカ、アオバト)
- ・北海道で初めての鉄道である官営幌内鉄道は、現在の小樽市と、どの市町村を結んだものでしょうか。(三笠市、岩見沢市、南幌町、夕張市)
- ・明治40年(1907年)に当時の新聞社「小樽日報社」に勤め、水天宮に歌碑が残る詩人は誰でしょうか。(石川啄木、斎藤茂吉、佐佐木信綱、伊藤整)

[要注意・不適切と考えられる問題]

- ・かつて朝里駅と銭函駅の間に位置し、平成18年(2006年)に廃止されたJR函館本線の駅はどれでしょうか。(張碓駅、春香駅、恵比須駅、浜小樽駅)→正答率が高い(88.6%)
- ・小樽港フェリーターミナルから、定期航路が設定されている港はどれでしょうか。(新湊港、新門司港、仙台港、函館港)→正答率が高い(92.3%)
- ・小樽市が平成16年(2004年)から製造しているボトルドウォーター「小樽の水」は、何を記念して製造を開始したものでしょうか。(近代水道百選、近代水道創設90周年、市制80周年、観光都市宣言)→弁別係数の低さ(上位群と下位群に正答率の差が見られない)

## 3. 今後の取組予定について

- ・テスト理論を用いた「ご当地検定」の検証は、十分に可能なことが判明した。
- ・学生に教示を行い「しりべし一般教養テスト」問題の作題と、ウェブ上での検証を実施する。

# 後志地域の情報を「効果的」かつ「継続的」に伝える方法

プロジェクト代表者: 木村 泰知

## 1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトでは、学生とともに、小樽や後志の地域情報を「効果的」かつ「継続的」に伝える方法について検討する。「効果」と「継続」は、トレードオフの関係にあり、コンテンツの質を上げて効果を高めると更新や運用のコストが増加し、継続を意識して運用や運用のコストを抑えるとコンテンツの質が低下する傾向にある。そこで、本プロジェクトでは、最新技術動向を調査し、最新の技術を活用することで、このトレードオフの問題を解決する。

## 2. プロジェクトの進捗状況について（～H28.10）

本プロジェクトでは、最初に、学生を連れて、東京での調査を行った。その後、後志地域の情報を「効果的」に伝える方法として「ドローンを用いた空撮」によるコンテンツ制作を行っている。また、「継続的」に伝える方法としては、お金を生み出すしくみが必要であり、「ビジネス化の可能性」を明らかにするための実験を行っている。ビジネス化の実験としては、「後志地域の商品」を「ふるさと小包」として送ることによるビジネスが可能であるか、クラウドファンディングを用いて、目標金額を20万円として、ニーズ調査を継続している。

<https://camp-fire.jp/projects/view/12514>



## 3. 今後の取組予定について

クラウドファンディングによる調査は、現在も実施中であり、11月末に終了する予定である。

# 小樽・後志におけるヒューマンストーリーの発掘と地域資源化 プロジェクト代表者：後藤 英之（プロジェクトリーダー：高野 宏康）

## 1. プロジェクトの目的・概要

### ●プロジェクトの目的

小樽・後志地域では、近代以降、多様な歴史文化が展開していますが、その担い手たちが高齢化などにより年々減少し、記憶の風化が進んでいます。本プロジェクトの目的は、小樽・後志地域の人たちのヒューマンストーリーを調査・記録し、地域資源として活用することです。

### ●具体的な事業

学生が小樽・後志の地域情報、取材方法、記事のまとめ方を学んだ上で、同地域の昭和30～40年代の歴史・社会・風俗・文化などに詳しい人にインタビューして、記事にまとめます。その成果にもとづき、インタビュー集の発行、座談会の開催、パネル展示、Webサイト等による情報発信を実施し、着地型・交流型観光コンテンツなどの地域資源としての活用・定着化をめざします。

## 2. プロジェクトの進捗状況について（～H28.10）

### ●地域情報の学習および取材方法・記事のまとめ方の習得（採択後～平成28年7月）

授業（総合科目「グローバルズムと地域経済」）内で、小樽・後志地域の歴史文化および社会経済の特徴、取材方法、記事のまとめ方についての講義および、小樽市内バスツアーによるフィールドワークにより、地域社会に対する理解を深め、取材と記事作成方法を習得しました。

### ●インタビュー実施と記事作成（平成28年6月～7月）

小樽のまちや歴史に詳しい市内在住の23人に、学生が各3～4名のチームでインタビューを実施。1500字程度の記事を作成しました。



取材の様子（運河プラザカフェにて）

### ●ゲスト講師とのトーク&ディスカッション

ゲスト講師（2名：北海道新聞記者、ライター）を招聘、取材と記事作成方法についての講演および学生とのトーク&ディスカッションを実施しました。



北海道新聞（平成28年7月14日付）



博物館でのフィールドワーク

## 3. 今後の取組予定について

### ●インタビュー先と学生の公開座談会（平成28年12月5日、会場：三川屋）

花園エリアのインタビュー先5名と、担当学生による公開座談会を実施し、授業内容および成果について情報発信します（「小樽のひとに学ぶ～花園界隈のいまむかし～」）。

### ●インタビューと座談会をまとめた冊子発行（平成29年2月、1000部）

インタビュー記事23人分と公開座談会を収録した冊子を発行します。小樽市内での配布、市立小樽図書館等へ寄贈し、地域資源として活用できるようにします。

### ●後志地域で活躍する人と学生の公開座談会（平成29年1月～2月開催予定）

後志地域で活躍する人にインタビューした記事（2015年度マジプロで作成、タウンページ小樽・後志版2017、掲載）について、インタビュー先と学生の公開座談会を開催します。

# (株)小樽水族館公社および(株)北海道マリパークにおけるBSCによる戦略の比較

プロジェクト代表者: 上山 晋平

## 1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、学生の実践的な問題解決能力を養成するための教育プロジェクトである。財務会計論を専攻する二村ゼミナールと管理会計論を専攻する上山ゼミナールの学生(23名)が、財務省北海道財務局の協力を得て実施した。小樽市の第三セクターである(株)小樽水族館公社と登別市の第二セクターである(株)北海道マリパークの戦略について、ヒアリングを行い、会計ツールの1つであるバランス・スコアカード(Balanced Scorecard, 以下BSC とする)を作成、比較し、課題および解決策を検討した。

## 2. プロジェクトの進捗状況について (～H28.10)

本プロジェクトは、以下のスケジュールで実施した。

H28.05.01	学生が主体となり、プロジェクト概要を決定
H28.06.13	財務省北海道財務局との打合せ、方針を決定
H28.07.21	市立小樽美術館にて、グループワークを実施
H28.07.22～	グループごとに(株)小樽水族館公社および(株)北海道マリパークのBSC および質問票を作成
H28.08.28	(株)小樽水族館公社および(株)北海道マリパークに質問票を提出
H28.09.06	(株)小樽水族館公社を訪問、上記質問票にもとづきヒアリングを実施
H28.09.07	(株)北海道マリパークを訪問、上記質問票にもとづきヒアリングを実施
H28.09.29	大学図書館にて、グループワークを実施
H28.10.06	大学図書館にて、公開で報告会を実施

## 3. 今後の取組予定について

報告書を作成し、(株)小樽水族館公社、(株)北海道マリパークおよび財務省北海道財務局に提出